

島を支え続けて40年

黒之瀬戸大橋開通40周年記念式典

4月2日、道の駅黒之瀬戸だんだん市場前駐車場で、黒之瀬戸大橋開通40周年を祝う記念式典が開催されました。

式は、隣接する阿久根市と合同による黒之瀬戸大橋開通40周年記念事業協議会（会長・川添健町長）主催で行われ、副会長の西平良将阿久根市長のほか両地区の関係者ら約60人が出席しました。

鹿児島島昆沙門太鼓『響流』による迫力ある太鼓の演奏で幕を開け、『黒之瀬戸大橋40年のあゆみ』と題した映像が上映されました。

式では川添健会長が「橋の開通により長島は、産業、医療、観光など多くの面で飛躍的に発展してきた。橋への恩恵を忘れることなく、今後も更なる発展に努めたい」とあいさつしました。

午後からは、阿久根側と長島側に分かれて黒之瀬戸大橋を利用するドライバーに記念品が配布されました。



↑橋へ向かうドライバーに記念品を配布



↑万歳三唱で式を締めくくる川添健会長（右端）と西平良将副会長（右から2人目）ら